

湯川記念財団「望月基金」報告書

	申請者氏名	藤井 裕
論文名	(1,2 とも) NMR study of $S=1/2$ quasi-two dimensional antiferromagnet Cs_2CuBr_4	
国際会議名	1. International Conference on Magnetism (ICM) 2. VII International Symposium on Research in High Magnetic Fields (RHMF 2003)	
開催地	1. Rome (Italy) 2. Toulouse (France)	
参加期日	1. 2003 年 7 月 27 日 8 月 1 日 2. 2003 年 7 月 20 日 23 日	
参加目的：	<p>擬 2 次元反強磁性体 Cs_2CuBr_4 における磁化プラトーの出現に伴う不整合・整合転移についての NMR による研究成果を発表するとともに、国内外の研究者と議論を深め、また交流をはかるなかで情報交換を行う。また、最新の研究動向について情報収集を行うとともに、今後の研究方向を探る機会とする。</p>	
会議の状況：	<p>(1,2) これらの会議においては、単分子磁石についての研究が大きな位置を占めており、この分野の盛り上がりを感じた。また、新設の強磁場施設の見学は研究システム構築の観点から貴重な機会であった。</p> <p>(2) RHMF では実験技術面の発表も目立っており、中でもパルス磁場 NMR が印象的であった。</p>	
成果概要：	<p>関連分野における最近の研究成果をこれだけ集中して聞く機会を得られて、大変有意義な時間を過ごすことができた。また、多くの発表を見聞きする中でプレゼンテーションの仕方、英語特有の表現なども勉強になった。全体を通して、磁気共鳴の重要性・有効性を再認識できたことは有意義であった。また、有効かつ新規な研究を外部から呼び込むための実験技術開発の重要性もあらためて認識した。</p> <p>これらの会議を通して、NMR 研究者を含む多くの磁性研究者と議論したこと、低次元系、フラストレート系、単分子磁石などの関連する研究の最新の成果について知ることができたことは、今後の研究に役立つものである。特にこれまで面識のなかった、Cs_2CuBr_4 を含めた私の係わっている研究対象に直接関わる仕事をしている海外の研究者との議論・交流は貴重であった。会議後も数人の研究者とメールで情報交換や議論をしており、今回の会議への参加は大変有意義であったと考えている。</p>	